

分野3

サステナビリティ経営の推進

本分野では、客観性・透明性の高い経営管理体制のもとで、事業活動を通じた環境・社会の持続可能性の確保に努めます。

また高度な情報開示の実施に加えて、ステークホルダーのみならず、有識者の方々と定期的に意見交換をすることにより、サステナブル経営の不断の検討・改善を重ねます。

課題	中期目標
課題 3-1 透明性のある組織統治体制の確保	客観性・透明性の高い経営管理体制の実現に向けて、不断に取り組む。
課題 3-2 環境や社会に関するリスク機会の管理強化	社会情勢やステークホルダーの声を踏まえたサステナブル重要課題の特定と、リスクや事業機会の検討を継続的に実施し、高度な情報開示を実現する。
課題 3-3 ステークホルダーエンゲージメントの強化	ステークホルダーとの対話を継続的に実施し、意見を反映させた当金庫らしい事業創出、社会貢献活動を展開する。

主な取組み

- サステナビリティ有識者とのダイアログ
- ステークホルダーとのサステナビリティに関する意見交換
- 系統全国連をはじめ協同組合組織との連携強化

関連するSDGs



透明性のある組織統治体制の確保

経営体制

当金庫の意思決定は、会員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を遵守しつつ、農林中央金庫法に定められた「経営管理委員会」と「理事会」が分担・連携する体制としています。

経営管理委員会は、総代会への付議・報告事項のほか、協同組織にかかる重要事項の決定などを行うとともに、理事に説明を求めたり、総代会に理事解任を請求できるなど、理事の業務執行に対する監督権限を有しています。理事会は、経営管理委員会の決定事項を除く業務執行の決定や、理事の業務執行の相互監督を行っています。

内部統制強化

当金庫は、基本的使命と社会的責任を果たすため、経営管理態勢の構築を最重要課題と位置付け、企業倫理や法令の遵守、適切なリスク管理その他業務執行の適正性を確保するため、内部統制に関する基本方針を制定しています。

リスク管理

当金庫は、リスクの種類や管理体制・手法を定めた「リスクマネジメント基本方針」のもと、業務運営において直面するリスクの重要性評価を行い、管理対象リスクを特定のうえで、各リスクの特性を踏まえた管理を行うとともに、計量化手法によりこれらのリスクを総体的に把握し、経営体力と比較・管理する統合的リスク管理を行っています。

ステークホルダーエンゲージメントの強化

農林中央金庫のステークホルダー

- JA(農協)、JF(漁協)、JForest(森林組合)などの会員
- 会員の組合員(農林水産業に従事するみなさま)、農林水産関連企業をはじめとする預貯金や貸出のお取引先
- 地域社会のみなさま
- 金融機関や市場参加者、業務委託先など業務全般にわたるビジネスパートナー
- 行政
- 職員

当金庫の経営や日常の業務活動と密接な関係にあるこれらのステークホルダー(利害関係者等)との信頼関係は、一朝一夕で築き上げられたものではなく、設立以来の歴史のなかで営々と築かれてきたものです。

この信頼関係は、当金庫にとって大切な財産であり、基本的使命や社会的責任を果たしていくためにも、今後も一層強固な信頼関係を維持・構築していくことが大切です。

そのためにも、ステークホルダーに対して、ディスクロージャーやアカウンタビリティを重視し、透明性の高い組織風土を構築していく努力を続けていきます。

ステークホルダーとの意見交換

「存在意義」「中長期目標」の策定にあたり、2020年10月、環境省環境事務次官 中井徳太郎様、農林水産省大臣官房環境政策室長 久保牧衣子様と、当金庫経営管理委員との意見交換を行いました。気候変動がもたらす諸影響とグローバルに進む官民の取組み、環境・社会課題解決に向けて民間企業が取組みを行う意義・重要性等についてご講演をいただき、当金庫の役員ワークショップでの議論も共有したうえで、意見交換を行いました。

また、2021年2月には、農業生産力向上と持続性確保の両立を目指す農林水産省の「みどりの食料システム戦略」について、農林水産副大臣 葉梨康弘様、農林水産大臣政務官 熊野正士様、農林水産事務次官 枝元真徹様と、当金庫役員との意見交換を行いました。食農バリューチェーン全体のグリーン化に向けたイノベーションの重要性や、ESG投資について意見を交わしました。



農林水産省との意見交換の様子(オンライン会議)

■ サステナブル・ファイナンスにおける取組み

投融資先との対話を通じて、投融資先のサステナビリティ取組みの支援やビジネスチャンスの創出につなげていきます。「ESGインテグレーション」の詳細はP26、「サステナビリティ・リンク・ローン」の詳細はP27をご覧ください。

トピック

農林中金バリューインベストメンツ株式会社におけるエンゲージメントの実践

グループ会社の農林中金バリューインベストメンツ株式会社（以下、NVIC）では、長期投資可能企業を見出す目利き力、長期投資家としての視点、グローバルに企業との対話を蓄積してきた経験等を最大限に発揮し、「資本コスト」「競争優位を築く事業戦略」等の観点で、経営者に“意味のある気づき”を提供する対話を志向しています。

2014年の創業以来、NVICが積み上げてきた企業分析や対話ノウハウを当金庫にも活かし、当金庫のご融資先との建設的な対話を行うことを目的として、2019年よりNVICと協働する取組みを開始しています。

グループ一体となったエンゲージメントの取組みを通じて、投融資先の持続可能な発展に貢献します。

■ 会員との意見交換

系統が一丸となったサステナブル経営の実践に向け、会員との意見交換を行っています。

JAグループにおいては、全国段階のJA全中・JA全農・JA共済連等とともに「SDGs連絡会」に参加し、サステナビリティにかかる世の中の情勢や、農林水産業・地域の持続可能性に向けた取組みについて意見交換を行っています。

また、JAバンクとしての取組みについて、都道府県段階のJA信農連との意見交換会を行っています。

さらに、森林・林業の取組みについては全国森林組合連合会と、水産業の取組みについては、全国漁業協同組合連合会と意見交換を行っています。

■ 協同組合組織との連携

協同組合組織は、「一人は万人のために、万人は一人のために」を合言葉に設立された組織で、地域社会に根差し、人々による助け合いを促進することで生活を安定させ、地域社会を活性化させる役割を担っています。

世界の協同組合の連合組織である国際協同組合同盟（ICA:International Cooperative Alliance）は、世界112カ国から農協、漁協、森林組合、生協など、あらゆる分野の318協同組合組織が加盟しており、当金庫も加盟メンバーです。

また日本では、2013年に国際協同組合年記念協同組合全国協議会（IYC記念全国協議会）が発足し、2019年7月より日本協同組合連携機構（JCA）に引き継がれています。JCAには、当金庫も参加し、他の協同組合組織との連携をすすめています。

協同組合組織とSDGs

協同組合組織は、貧困や飢餓などの問題に取り組んでおり、国連によりSDGsを達成するための重要なステークホルダーの一つとして位置付けられています。ICAも全世界の協同組合が総力をあげてSDGsの達成に向けて取り組むことを奨励。日本でも、政府による「SDGs実施指針」に協同組合組織が明記されています。このように、SDGsの達成において協同組合組織が果たす役割に、国内外で大きな期待が寄せられています。